

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

青鬼赤鬼の揃ひ踏み豆を撒く

新里町乙 澤井 好明

●特選の選評 季語は「豆を撒く」「追儺の傍題」で、近年は各地の寺社で節分の日の年中行事として、「鬼やらい」が行われるようになった。中心の「揃ひ踏み」とは、大相撲の力士が土俵に上りみんなで四股を踏むことで、鬼が並んで「福は内」とやると、縁起物を拾うため境内の善男善女が一斉に両手を開いて動く。この例えが面白く一句をまとめたことに拍手を送りたい。

俳句



加茂都紀女 先生

真つ新な夢を詰め込むランドセル

立伏町 大樹 龍五郎

どっかりと土手に座りて蓬摘む

中岡本町 中沢 智子

分け合って自慢しあつてしもつかれ

野沢町 渡辺 明広

容誘ふ派手な手打ちや達磨市

石井町 吉澤 伸人

新松子子は夫となり父となる

清原台6丁目 小太刀 節子

大きめの制服幼な入学児

幸町 渡邊 公之

帰りゆく末頼もしき日焼の子

江曾島本町 中村 元吉

音楽に国境なしを持論とし世界のオザワ指揮棒置き逝く

さつき3丁目 伊藤 純夫

●特選の選評 音楽の巨匠、小澤征爾、去る2月6日に86歳の生涯を閉じ、名指揮者の死を日本、世界中が悼む。「オザワ」の片仮名表記に確固たる指揮する後ろ姿と、また白髪、額の皺、鋭い眼が彷彿する。「指揮棒置き逝く」再び振らぬ指揮棒、死去。ここに作者の感動を見る。世界平和に寄与した小澤征爾への限りない讃美である。さよならマエストロ(音楽の巨匠、名指揮者)。

短歌



安野登美子 先生

香頭つ冬の林檎を煮る夕べ
天気予報は冬を告げある

大曾5丁目 岩淵 照美子

早春に梢を濡らし猫やなぎ
ふくらむ蓄氷雨ふる朝

西の宮2丁目 篠崎 一郎

老木の枝に白梅ひそと咲く
東風強きなか歩くもよろし

鶴田町 加藤 誠子

如月の田を掘り起こす耕運機
春起こしとふ言葉を知りぬ

西2丁目 佐藤 順子

令和5年度年間賞

令和5年4月号〜令和6年3月号の「市民俳歌柳壇」に掲載した作品の中から、左の通り、優れた作品が「年間賞」として選ばれました(敬称略)。入賞者には、後日、記念品をお送りします。

ほわあんと窓越しの桜ながめ居る
気配だけなる猫と並びて

清原台1丁目 三木 紋子

万太郎さん教えておくれ葉裏まで棘ある草の名前はなあに
金色の絨毯のごと麦畑五月の風にうねり続ける

西原2丁目 久保川 賢一
西2丁目 佐藤 順子

もう少し生きるつもりで靴みがき

川田町 小林 和子

●特選の選評 体力の衰えは足からと言う。長生きをするには頻繁に外出をして足を鍛えねばと新しい靴を用意して明日からの散歩に備える。しかし、大雨や雪に出鼻を挫かれることもしばしばである。初心を忘れず諦めずに続けてもらいたい。

川柳



佐藤隆久 先生

復興を祈る能登の地朝の鈴

中戸祭1丁目 阿部 壽美江

福の神私の前を素通りし

鶴田町 湯澤 正昭

このお札消費期限の記載なし

下田原町 五十嵐 由美子

親元を離れ新たな風を追う

雀の宮6丁目 鈴木 あり

友の愚痴長びくらしい煮大根

下栗町 大塚 榮子

笑つても泣いても顔はひとつだけ

水室町 関 ふさ子

太陽の母と想える暖かさ

鶴田町 御牧 秀世

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

裏

3208540
住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

作品への思い
作品への思い